

## 刊行にあたって

京都府立大学文学部歴史学科では、京都府下を中心にさまざまな地域をフィールドとして、歴史と文化遺産に対する調査研究を実施してきた。京都府域における調査研究の核となるのが本学の地域貢献型特別研究（ACTR）で、平成 27 年度も、京丹後市、舞鶴市、宮津市、京田辺市などの地域で、歴史学科教員を代表とする共同研究をおこなっている。その成果の一部は、京都府立大学文化遺産叢書シリーズとして公刊しているが、それ以外の調査成果など、叢書に掲載されない成果も多くあるため、フィールド調査集報として、まとめて公刊することとした。本書は、その第 2 号にあたる。

本年度は、『日本のふるさと大丹後展』の共催団体に京都府立大学が加わったこともあり、丹後地域の歴史と文化遺産について、さまざまなアプローチをおこなっている。学生たちの活動も含め、フィールドにおける調査のみならず、大学院生による展示解説の報告など、調査成果の活用面も記録し、文化遺産の調査から活用に至るプロセスが理解できるように配慮したつもりである。今後も、調査研究成果を社会に還元することが強く求められていくことになると思うが、その取り組みの一つとして、活用事例の提示が重要な意義をもつと考えている。

本書は 4 部から構成されている。第 I 部と第 II 部は歴史学科教員を中心として各地で実施している地域の歴史と文化遺産の調査についての報告集で、第 I 部は京都府域、第 II 部は京都府外の諸地域を対象としている。第 II 部と第 III 部は歴史学科の学部生と大学院生を主な対象として実施している課外の研修プログラムの報告集で、第 III 部は文化遺産デザイン研修、第 IV 部は文化遺産フィールド研修の報告を収録している。そのなかには、第 III 部の文化遺産デザイン研修のように、これまでまとめたかたちで報告を作成してこなかった活動も含んでいる。本書を通じて、歴史学科の活動と地域貢献の一端をご理解いただくことができれば幸いである。